

あけましておめでとうございます。本年もウガンダの今を伝えるべく毎月1回のペースで新鮮な情報をアップしていきたいと思っております。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

## 1 ウガンダの新年

年末年始はカンパラで過ごしました。キリスト教徒が多いこの国では25日はクリスマスの日、26日はボクシング・デーで国民の休日です。キリスト教徒もそうでない人も12月後半はお休みモードです。ウガンダの公立学校は12月初め頃から1月いっぱいまで学年末の休みになります。町全体がお休みの雰囲気で購入に出かける人も多く見られ、レストランやバーは繁盛していました。

大晦日から新年にかけて、多くのレストランは新年を祝うお客さんで盛況のようでした。そして午前0時。大音響とともに市内各地から一斉に花火が上がり始めます。こんなに準備をしていたのかと驚きました。かなり長く続いていたと思います。以前は3時間、4時間、ほとんど夜明けまで続いていたそうです。その後、規制が行われて現在は時間制限があるとの事でした。

平和と安定、発展を願って新年を迎えるウガンダの人々の熱気が感じられる年明けでした。



[新年を祝う花火]

## 2、カンパラ立体交差建設・道路改良事業(通称カンパラ・フライ・オーバー)の完成

ウガンダは海に面していない内陸国です。同時にケニア、タンザニア、南スーダン、コンゴ民主共和国、ルワンダと国境を接し、東アフリカの物流、交通の要衝です。その

中心に位置する首都カンパラは、急速な人口増加や経済成長に伴い市内の交通量は満杯状態です。カンパラ市内で特に主要な交差点では混雑が激しく、短距離の移動でも長い時間がかかります。日本は JICA を通じてこれまでも道路などの整備を支援してきました。カンパラ・フライ・オーバーの事業では市内の主要な交差点を立体化し、また既存の道路の幅を拡充する大型の事業を行ってきました。円借款(ウガンダ政府への貸付)の形態で 2015 年 9 月に始まったこの事業は当初 2020 年末の完成を予定していましたが、このたび事業はほぼ完成を見ました。

フライ・オーバーはすでに通行が始まっています。通勤、通学の車、ボダボダ(バイクタクシー)、マタツ(乗り合いタクシー)、大型トラックがひしめき合うように通行しています。世銀の事業で公共交通として電動バスの導入が検討されているほか、お隣のケニア、タンザニアからの鉄道の延伸、連結の事業も進もうとしています。東アフリカ共同体(East Africa Community)の統合は確実に前進しています。

ウガンダのインフラ事業としては 2018 年 9 月に完成したナイル架橋建設事業(ナイル川の水源にあるジンジャ市にナイル川をまたいでかかる新しい橋。2024 年 9 月の本コラムにてご紹介しました。)と並ぶ大きな事業です。

立体交差の設計の時に予見できなかったのは、ボダボダ(バイクタクシー)を始めとする交通量の爆発的な増加です。また、交通量の増加に対する交通安全教育、ルールの徹底も課題でしょう。今回、関連事業(カンパラ市交通管制改善事業)によりカンパラ市内随所に信号機が設置され、運用が始まりました。それまでは 1 カ所か 2 カ所ぐらいしか交通信号がありませんでした。巨大なウガンダのエネルギーをさらに効率化するために、インフラ整備を進め同時に人々の安心安全を高める。そのような努力が今後も求められると思います。



[カンパラ市内に設置された交通信号]



[フライ・オーバー(カンパラ立体交差点改良事業)の様子]

(以上)